

今 柏市は
学びづくりフロンティアプロジェクト
に取り組んでいます

学校教育部 指導課

今の子供たちに求められる力は

正解の無い課題に対して、
自ら問いを立て、
他者と協働して解決していく力

学ぶ意欲

学ぶ習慣

全ての子どもに育む

学ぶ意欲

学ぶ習慣

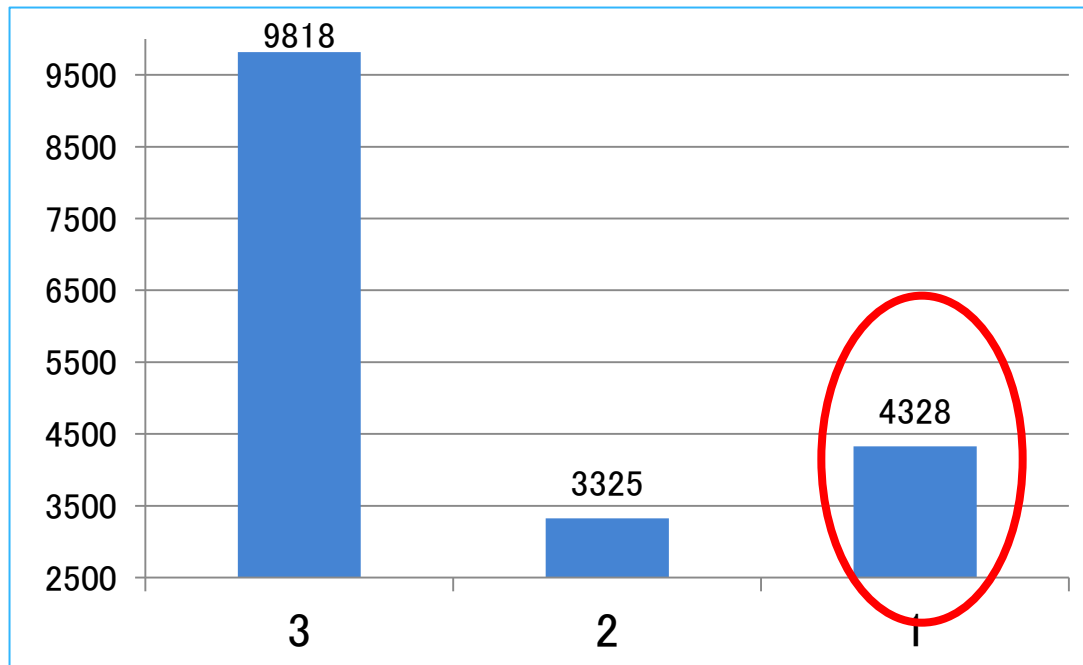
公立学校の目指す姿

良い公立学校

学びづくりフロンティアプロジェクト
(第五次総合計画内 全校で展開)

子供たちの学びを取り巻く課題

■いまの学力状況（小学校）

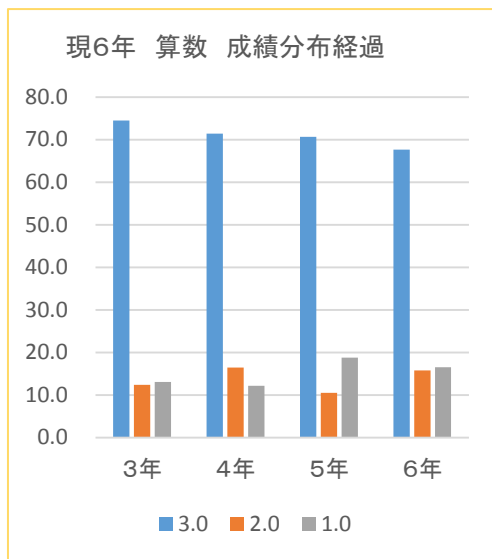


3=優れている 9800人
2=平均相当 3300人
1=課題あり 4300人

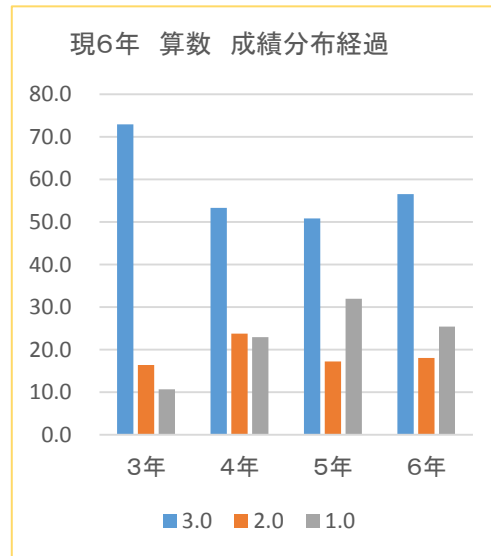
小学2年～6年
17,400人

2極化が課題 ⇒ 全体の底上げ

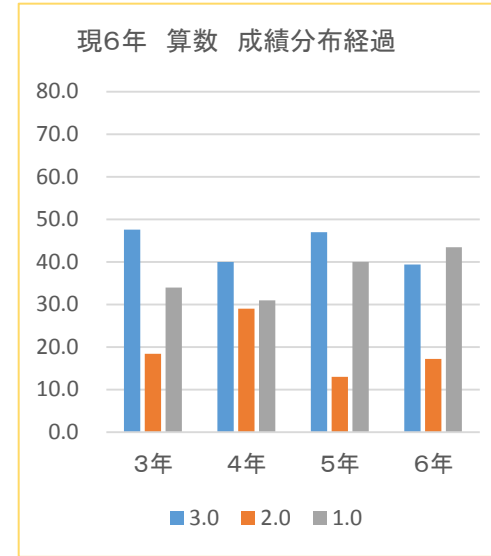
子供たちの学びを取り巻く課題



成績安定層の学校



成績平均層の学校



課題のある層の学校

学習内容が到達できない子供の割合を**ゼロ**に近づけること

■ 柏市教育委員会全課室が協働するプロジェクト

学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ
＝21世紀の社会に通じる力につなぐ

授 業 改 善

学ぶ意欲を高める支援

サポート教員（学校教育課）
図書館指導員（指導課）
理科支援員（指導課）
ICT支援員（研究所）
おもしろ歴史教室（文化課）
鉄棒教室（スポーツ課）

学ぶ習慣を育む支援

放課後子ども教室
（生涯学習課）
生徒指導アドバイザー
スクールサポーター
教育支援員（研究所）

計画的な環境整備

ICT環境整備（研究所）
図書館整備（財務室）
図書館エアコン設置
（施設課）

授業改善につながる柏独自の人的支援

サポート教員は、一人一人の理解に寄り添う学び合いを支える先生の配置



大きな意欲につながる



小さなつまづきの解消は

教育支援員は、子どもの困り感を支援する子どもにとって助けとなる先生の配置

専門家がいる学校図書館は学習を広く深く
読書活動と調べ学習の授業支援に**図書館指導員**



魅力ある理科授業 **理科支援員**
実験を通じて、観察を通して、科学的に考え、追究する力を

学習習慣は、学校と家庭と地域の協働作業
放課後子ども教室で培う学習習慣



21世紀の基本スキル読み書き・計算・ICT
ICT支援員によるサポートの強化

街づくりは
人づくり

21世紀社会に必要な「基礎力」「学ぶ力」を培う
～学んだ力(学力)から学び続ける力(学力)へ～

学ぶ意欲

学ぶ習慣

子どもにとって
わかった！できた！
明日も受けたい授業！

専門家集団が
学校のチーム力を向上

学ぶ意欲と習慣を育む

図書館を核にした授業づくり 第1次プロジェクト

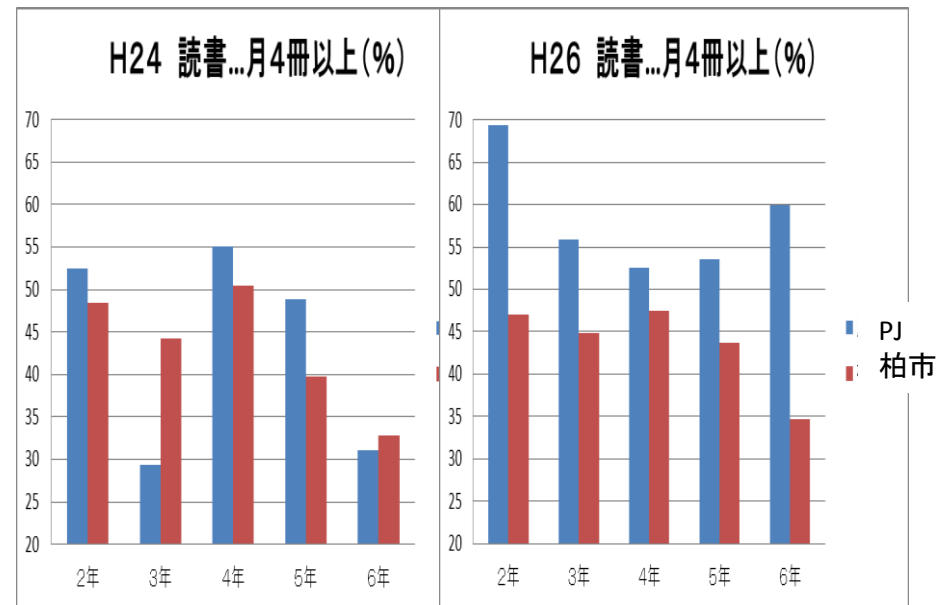
■ 「9年間で1000冊本を読もう！」

読書⇒話し合いの活動(アクティブラーニング)⇒算数に導入
毎日図書館に人がいる⇒読書量の確実な増加

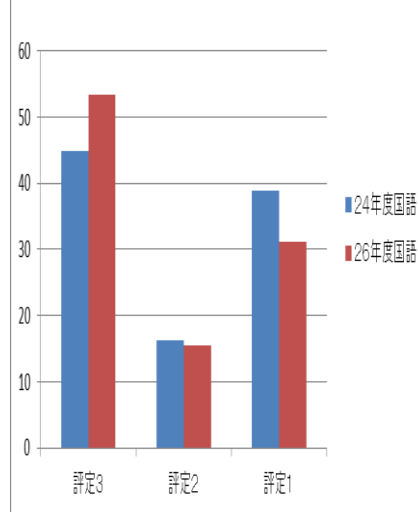
	3年次	4年次	5年次	6年次
市平均との差	-11.9	-9.5	-6.5	-1.8

プロジェクトにより平均点が10点上昇

全ての学年で市の平均を上回る読書



3年前と比較して下位層の減少



小学校

読書量の増加 1.5倍
夏休み読書感想文教室
夏休み自由研究教室
作品展入賞者増
学習ノートに保護者感想

中学校

定期テスト前補習教室
読書量の増加
自尊感情の向上

学ぶ意欲と習慣を育む

図書館を核にした授業づくり 第1次プロジェクト

■ 「ことばの宝箱を綴る」 読后感想の交流で感性を磨く

人材の充当⇒複数体制での授業の一般化⇒コラボ授業の実施
人材の充当⇒きめ細かな指導の充実⇒生徒指導上の安定

読書量の増加＝H24年度 16000冊⇒H26年度 27000冊 1.6倍

小学校における副担任制に近い形を実現し、複数体制で指導すると授業が変わる

理科支援員により、一人1実験の実現

図書館指導員の関わりは、課題を抱える中学校生徒の心を開く糸口になる。

放課後子ども教室の複数学年開設により、家庭学習の定着率が上昇する。

夏休み中の図書館活用促進。放課後子ども教室，算数教室，感想文教室，自由研究教室

両学区の実践から

教員の意識が変わった所に効果が出る

子どもたちの学力を変えたければ、自分たちが授業を変えなければならない。

サポート教員，学校図書館指導員等を活用し，体験的な魅力的授業の実現。

先生達が望むことを，望むように支援することが大切。

学ぶ意欲と習慣を育む

教職員の一致した授業を創る 第2次プロジェクト

■子供たちに力をつけたい！ 全ての教師の願い

目指す子供の姿を 中学校区全教員で共有

中学校区の目指す子供の姿を 小学校に落としこんで共有

目指す姿実現に向けた 具体的な手立てを共有

小さな効果が子供の姿に現れる

さらに具体的な指導法の工夫改善

学ぶ意欲と習慣を育む

多様な人材と創り出す授業 第3次プロジェクト

■子供たちに力をつけたい！ 全ての教師の願い

目指す子供の姿を共有し具体的な手立ての共有化を図る(開始前)

具体的な授業に人材を集中して投入し、具体的な効果を生み出す
サポート教員を中学年以上に全学年配置＝コラボ授業
学校図書館指導員・理科支援員の時間増＝アクティブラーニング

大学と連携し研究者からの直接指導による、授業改善
スーパー先生による、模範授業の実施に直接学び、授業改善
民間企業との連携で、授業と家庭学習をつなぎ、授業改善

学ぶ意欲と習慣を見とる(指標)

子どもたちに「つきたい力」「4つのC」

Concept
(見通す力)

Challenge
(挑戦する力)

Communication
(関わりあう力)

Control
(自律する力)



Change
(成長する)

柏市は 学ぶ意欲と学ぶ習慣を全ての子どもに育みます

なぜ4つの「C」なのか

児童生徒が大人として活躍する21世紀中盤から後半の社会は、**知識基盤社会**と言われ、**正解と言われる解の無い課題**に対して、**他者と協力し合いながら最善を尽くし、新たなものを創造する力が求められている。**

知識を利用しながら定型的な処理をする仕事は、**第四の産業革命**と言われる**ロボット（人工知能）の台頭**により無くなるだろうと言われ、**数多くの仕事が消えて無くなる仕事リストに掲げられ、今の小学生の65%は、現在存在しない職業に就く**だろうとも言われている。

このような社会を生き抜く「学力」を育成する時、**「学力」を「学んだ結果としての力」と捉えるのではなく、「学ぶ力として捉える」**ことが、「学力」の実態に即していると考え、**その根底となる学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけることが、「学ぶ力」を身につけることと考えた。**

そこで、**学ぶ意欲と学ぶ習慣を下支えする、4つの力「見通す力（Concept）」「挑戦する力（Challenge）」「関わり合う力（Communication）」「自律する力（Control）」**を**「学び方を含めた学ぶ力」として、学習状況調査の中で数値化**できるように、**40の質問項目を全学年共通で取り入れた。**

4つのCの選定、項目選定にあたっては、**管理職・教員・市役所職員・指導主事等50名のブレインストーミングを通して設定した。**

柏市は **学ぶ意欲と学ぶ習慣を全ての子どもに育みます**